

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
平成31年4月2日（火）
- 2 確認箇所
2号機タービン建屋原子炉注水設備
免震重要棟集中監視室
- 3 確認項目
2号機燃料デブリ冷却状況確認試験の実施状況

4 確認結果の概要

原子炉注水停止時の手順の最適化や運転・保守管理上の改善等を行うことを目的とした2号機燃料デブリ冷却状況確認試験のSTEP1（2号機原子炉注水量の低減試験）が本日（4月2日）から開始され、2号機の炉心スプレイ系原子炉注水量を1.5 m³/時に低減する操作が行われたことから、免震重要棟集中監視室及び2号機タービン建屋原子炉注水設備での作業の実施状況等を確認した。

- ・免震重要棟集中監視室と現場の東京電力社員が緊密に連絡を取り合い、慎重に作業を進めていた。
- ・操作する弁は電動弁であるが、繊細な操作を行うため、現場での手動による操作が実施された。（写真1）
- ・作業は、10時05分から10時52分にかけて実施され、問題なく目標の注水量（約3.1 m³/時→約1.5 m³/時）に低減された。
- ・作業開始前後で、原子炉注水ポンプ圧力等のプラント関連パラメータに異常な値は確認されなかった。
- ・なお、2号機原子炉注水量の低減試験は、この状態を4月9日まで継続し燃料デブリの冷却状況の実態を把握することになっており、東京電力は7日間で原子炉压力容器底部の温度が約8℃上昇する予測をしている。（低減試験開始時の原子炉压力容器底部温度：約20℃ 原子炉压力容器底部温度に係る「運転上の制限」※：80℃以下）

※「運転上の制限」：施設の保安のために必要な措置として規定された安全機能を確保するために必要な動作可能な機器（ポンプ等）等の台数や原子炉の状態毎の遵守すべき制限事項（温度や圧力等）。



(写真1)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。